

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。キーパーたちは、「動物のことを見せたがっている。」ということは何度も伝えた事実ですが、そのプロとしてのテクニックや苦労は意外と知られていません。今日は、ニホンザル担当の「朝倉」さんから教わったニホンザルの習性とそれを見せるテクニックです。



この4月にオープンしたサル山レストハウスは、間近に日本ザルを見ながら寝そべってくつろいだり、食事を楽しんだりできる人気スポットになりました。みなさんにも、急に雨に降られたり、カラスの襲来でイヤな思いである人がいると思いますが、ここは自信を持っておすすめできます。さて、朝の開園前、担当の「朝倉」さんがレストハウス前のえさ場にえさをまいています。写真の通り「小麦」です。サルたちは一生懸命えさを探して口に



するはずですが、しかし…。疑問①探すの大好きなサルたちが手当たり次第、口にえさを運びます。②レストハウス内にはえさの見本の展示がありますが、今日まいたえさとは少し違います。

もともと、野生のニホンザルはえさを求めて1日歩き回ります。小さな粒をやっと見つけて、次の粒を探すというのです。しかも、粒があまりにも小さいので器用な利き手でなければつかめません。

ちょうど床にこぼれた米粒を集めて、茶碗に盛るようになります。近頃では観光地の土産物店の店先のお菓子を万引きするサル(妻の実家の近くの「日光・中禅寺湖」では日常茶飯事)もいるようですが、それは本来の姿ではありません。

写真は、開園後のレストハウス前のサルです。「サルも去る？」(親父ギャグのつもり、寒がってね。)でも、チップの中から必死にえさを探すサルの姿があります。これこそ「ニホンザル」の本来の姿であり緻密な計算の上で行われる生態展示なのですね。(霊長目オナガザル科)



サル山の朝倉キーパー

サル山でこの顔を見かけたら、質問などで声をかけてみましょう。草食動物違って、大きな声を出してもそんなにサルは逃げません。もちろんあまりしつこく聞くと作業に支障がありますので、簡潔にポイントを絞って質問すると意外な発見ができますよ。もちろんすぐわかることや図鑑を見てわかる数字などはご法

度です。質問するためには事前学習(観察)が大切です。



現在、研修折り返しです。生き生きとした動物の姿が伴わない「動物の世界」の学習はあり得ないと実感しております。できるだけ生の生き物を見て、生命の神秘とつながりを感じてほしいと願って「動物園」で仕事をしながら教材を作っています。食べ物を粗末にしていませんが、いただきます・ごちそうさまを心から叫んでいますか、今回の情報提供の朝倉キーパーも同じ願いです。

